

令和7年度 1学期 始業式 式辞

みなさん、おはようございます。新緑が輝きを増す季節となりました。240 名の新入生のみなさんは昨日入学式を終え、在校生は新クラスとなり、新たな出会いに希望が膨らみます。

さて、令和7年度、始まりの日にあたり、みなさんに数点お伝えします。まず【出会い】についてです。出会いは新たな自分を発見する大きな契機となります。それは人であったり、書物であったり、環境であったりします。私は幸いにしてこれまで人、書物、環境との素晴らしい出会いに恵まれ、生きる力をいただきました。これからも出会いを大切にしようと思っています。出会い等によって幸運をつかむことをセレンディピティ (serendipity) と言います。みなさん、知的好奇心を掻き立て常に学び、セレンディピティを追求してみてください。ただし重要なのは、学ぶ姿勢なくして、セレンディピティはつかめないということです。次に書物との出会いについてです。これまで、書物に出合っ
て「腑に落ちる」「ぱっと」広がる世界がありました。自ら考え、行動するヒントや、勇気や哲学おも授かる場合があります。私は 2.26 事件で父親を亡くされた修道女の著書の一つ、「置かれた場所で咲きなさい」が腑に落ちました。苦しい時こそ自ら行動することの大切さや、与えられた環境を言い訳せず、自分にできる努力を続ける、諦めずに根を生やすことの重要性などを授かりました。もう一つこの方の記憶にのこるフレーズを紹介します。「何もかも開示することが親しさではない。親しさというのは開示性の度合いではなく。相手の独自性を尊重し、相互の人格を認め合うことが大切である。そこに淋しさや孤独が存在するが、その孤独を味わって、澱（おり）まで飲み干すことが私たちの成長のために必要である」解説はしません。みなさん個々に解釈してみてください。以上始まりの日に当たり、【出会い】についてお伝えしました。参考にいただければ幸いです。

終わりになりますが、本年度、本校関係者すべてのみなさまに美しい出会いがあることを念じ始まりの式辞とします。

令和7年4月8日
学校長 藤田繁也